

◆ 平成 28 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：新河岸川広域景観づくり連絡会

19A-43

代表者：会長 堀江 肇

URL :

1. 活動が必要とされた状況

埼玉県の水と緑、歴史や文化などの魅力を最大限に生かし、良好な景観形成の取り組みを強化するため、平成 18 年 3 月景観アクションプランが策定され、平成 20 年 4 月、県の主導により新河岸川広域景観プロジェクトがスタートした。テーマに沿って、県、市、及び市民が連携して講演会等各種イベントを行い、新河岸川の魅力を地域住民に発信。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

平成 22 年 3 月プロジェクトから発展し「新河岸川広域景観づくり連絡会」を組織し、川越市から和光市に至る市の市民団体が年間 7~8 回程の会議を行い、共同でイベントなどを企画、運営している。

- ①景観観づくり講演会（広く県民を対象にした勉強会）
 - ②ウォーキング（新河岸川沿いの各地域で歴史、文化を学ぶ）
 - ③カヌー、舟乗船（川の中から流域の景観を観察）
 - ④活動発表会（各地の市民団体の活動を紹介し啓発）
 - ⑤交流会（共通する課題、未来などを親睦会で話し合い）
 - ⑥新河岸川河川敷一斉清掃（各地の日程で行う）
 - ⑦各地で開催されるイベントに参加、協力、啓蒙行う
- *参加者人数はそれぞれ 10 人から 50 人



3. 活動の成果

- ①川を通じて多くの各市の市民団体の人と知り合い、交流が生まれた。
- ②各地の川に関わる課題の違いが解り、今後の活動に生かせる知識を得た。
- ③川をきれいに、自然を残したいと云う共通の認識が確認できた。
- ④一つのイベントの企画運営を通して連帯感が生まれた。
- ⑤川越から和光までの各市の団体が協力して一冊のウォーキングマップが完成した。
- ⑥イベントなどで流域住民や市などに新河岸川の関心を高めた。
- ⑦県の様々な事業に協力し、各市と市民との仲介を行い、川の魅力づくりに貢献した。
- ⑧冊子を作ることで多くの人々が新河岸川や活動を知ることになり、今後の協力を繋がる。

4. 今後に残された課題

- ① 新たな会員を増やす。
- ② 県、市、市民間の連携を更に強化する。
(川は県の管轄にあり市は受け身。市の間でも取り組みに温度差がある。)
- ③ 広域景観づくりに市民の意見を反映させる仕組みをつくる。